

玉名郡岱明村高道で実施された集団化換地の事業は、いわゆる純然たる農民自身の手による事業である点が注目される。

岱明村高道は、今でこそ、二つの干拓水田を含めて、千四百六十畝の耕地をもち、年間八億にのぼるのり養殖収入を得て、強い経済力を誇っているのだが、ひと昔前まで「高道イ嫁入るか、ダラ(刺)の木イ登るか」といわれたほどの寒村であった。その名残りが、背後の高台一帯の瘠せかけた桑畑、イモ畑であった。

平均二十町、一筆せいせい五町どまり、それが多い人は十筆をこえる分散で、おまけに農道は、リヤカーも入れなかった。作業能率の悪さの典型のようなこの高台に挑戦して、徹底的にやり直そうと、換地整備にとりかかったのが昭和三十六年である。

ブルドーザーで押しならされ、二十五町毎に見事に区画された三十畝の果樹団地には、四万五千本のミカン苗がピッシリと植えられ、幅員六畝、総延長千十畝の幹線農道に、四畝幅二千六百畝の支線が縦横に走っている。消毒

用あるいは灌漑用水車は、農道はもちろん、ミカン園のなか至るところへ乗り入れが可能だ。三年後の収穫期には、むろん車を入れる。肥料、農機具あるいは収穫物を、肩にかついで畑を歩き来た頃とは比べようもない。

関係者の話の中から、この事業の成功の因を探ってみると、大よそ次のようなことがいえるのではあるまいか。

第一に、土地改良区リーダーの献身的な努力、説得もさりながら、その計画段階で、極めて周到であったということだ。まず、最初、整理区域外のいわゆる出入り作の部分を統合整理し、さらに交換分合の形で各人の所有地をできるだけ区画内に集約した。こうした準備を完了した上で、工事に着手し、区画配分の作業が行なわれたのである。ややもすれば、トラブルのもととなりやすい配分案が、殆んど支障なく実施に移されたのは、こうした計画の先行がものをいっているようだ。

次に、村民の自覚であろう。経済力に余裕をもつとはいえず、ミカンは少なくとも四年間は収入とならない。農家としてはよほどの決断が必要だったろう。明日の農業を真剣にみつめた農民の意識が、この土地基盤の革命に踏み切らせた、大きなきつかけとなっている。古老の一人は、今度、市内からきたお嫁さんを仲人するという話を嬉しそうに話してくれた。

資料

農地集団化をめぐる諸問題



戦前の農業は機械力の利用が進んでいなかったため、農道を造るには耕地が潰れるからといって反対され、着工直前になって事業を取り止めた例も少なくなかった。従って戦前より植栽されているみかん園地帯では、園地の買収ができず、索道に変更している地域や、あるいは農山村地帯の階段状の畑地帯では農道が少なく、現在でも畦畔を人肩によって作物を運搬している所もある。

しかし近年機械の発達と労働力の減少に伴ない農道新設に対する要望が強くなり、本県では三十九年度に実施した農道は団体営事業として十二地区延長六千八百畝、橋梁二カ所事業費二千五百万円、農業構造改善事業として二十六地区延長四十八畝、事業費一億四千百万円を実施

農業機械化

農業機械化をはむ諸条件の中に「耕地が分散している」ことが挙げられる。耕地(ほ場)が分散していると農業機械利用や農作業に具体的にどんなに不都合であるか、いま一度考えてみたい。

(一) 耕起、整地から収穫までの作業、灌水、防除作業等どんな作業をするにも移動を必要とするが、農機具や農業生産資材及び生産物の運搬をする場合、農道がないために他人のほ場又は畦畔を通らなければならない不都合がある。従って移動が困難であって、作業時間の無駄な点が多い。

(二) 特に農機具利用の場合、各種作業機を持込まねばならない。この場合一団地の面積が比較的狭いときは、せまい団地単位に作業をしなければならぬ。広い耕地ならば例えば耕起作業を午前中に行い、午後砕土作業をすれば午前に犁、午後に砕土機を持って行けばよい。

(三) 狭いほ場であれば作業の巡回時間が全所要時間に対して割合に多くなり、作業効率が低くなるから不経済であり、単位面積当たりの作業時間も広いほ場に比較すれば長くなる。

四 また水田灌水の場合は狭い水田ではよけいに用水を必要としエンジンの使

ているが、農地が分散しているためうまく使えない、という不合理がございましたね。よその家より田植が遅れますと、よその植え田の中を耕耘機を通さなければなりません。そのあとは手直しをしておかなければならず、それは、女の仕事とされておりますから、田植えのあとまで余分の仕事があったものです。

集団化が終り、農道が広くなりましてからは、自分の計画通りに田植えができますし、耕耘機の能率が大変高くなったように思います。お蔭様で、この頃は主婦の田んぼへ出る時間は非常に少なくなつて、その分は家事へ振り向けられるようになりまして。

矢部の方で何とお話ですが、交換分合までは通作距離が延六畝もあつた農家で、二カ所に集められたためわずか三百畝に短縮され、荷物の運搬も殆んど牛の背にたよっていたのが動力運搬に代わつたそう、集団化の効果は婦人の間に一番に及んでいるようでございます。

農地の集団化は、婦人がまづ先にたつて推進しなければならぬと思つて、それから、今、ほんの五、六反ぐらゐの農家でも、耕耘機のない所はないほどですが、集団化して、農協などを中心とした委託耕作とか、ライスセンターなどの施設を作るとかが考えられていようように思ふのですが。

県では、さき頃、農家の志向調査を行ないまして、専業農家、兼業農家、離農と三段階の志向に基いてそれぞれアド

用時間も多くなり、燃料費も増加する。

農地を集団化していない農家では、以上のような不合理を意識しながら、毎年不平不満のうちに農作業を続行してきているのである。

そこで農地集団化には次の方法があるが、その特長について考えて見よう。

一、交換分合によって集団化した場合イ、移動時間が少なくなり作業時間の効率がよくなる。

ロ、水田では灌水作業は一カ所にエンジンと揚水機を取り付け、かけ流し方式で灌水できる。

ハ、作業機や資材の運搬が省力できる。

二、ほ場整備によって集団化した場合この場合は前項の(一)よりもはるかに機械作業は効率がよくなる。従来迄の区画の決定は人力作業(水田の中耕除草機利用、水車による灌水作業、手刈り作業)等や、畜力利用による農作業(耕起、代がき)等を中心として考慮がなされてきたものであり、従つて約二〇m×五〇mの一枚一〇町の区画が比較的多かつたが、今は動力耕耘機は勿論、中、大型の農用トラクターあるいはコンバインなどが導入されるから、それぞれの大型機械の機能を十分發揮させるには当然一枚のほ場面積を拡大し、農道も整備する必要が生じて来る。そこで一枚三〇町以上、農道四m以上といった耕地のほ場整備を行なう必要があるわけ、農作業の効率化から

パイプを行なうことを考えております。(増田) 熊本の産業構造がどうなるかというところで、対策も変わってくると思つて、兼業農家が増えることは間違いないですね。しかし、農業に関しては、専業も兼業もあるいは将来離農する人が多くなつた場合でも、農地の集団化は益々必要であると思つてます。

(大和) 何ともあれ、集団化を進めるにあたっては、経営改善のデーターをもつて、説明する必要があります。また、先進地を参考にしようということも大変必要なことですね。

(坂本) 女もこわい。(笑) いやいや、親父の話を奥さんがこわしてしまつていふような意味ではありません。少なくとも主婦の発言が非常に重要になつてきていると思つてます。

(岡本) 女がその気になりますと男より強いところがございませうからね。ある所では、みかん園を開いたのですが、自信を失いかける御主人たちを引張つて、面子にかけても成功させようと先頭に立つて頑張つている御婦人たちがあります。女性も集団化に理解をもつと深めるようにする必要があるのであります。

(坂本) これまで、地味な、定時勤務ではできあがらぬようなこの仕事に、汗と涙で頑張つてきた事業主体の職員を、何らかの形で顕彰するのも、今後の事業推進に必要なことと思つてます。

今日はどうも御多忙中、有意義なお話をありがとうございました。

いつて最も合理的である。

例えば昨年度農業構造改善事業で実施した玉名市小田地区では一枚一畝、幹線道路幅六m、支線道路幅四mに整備した。又換地計画によって従来一戸平均七団地に分散していた耕地が一、二団地に統合整備され極めて効率的な農作業ができるようになり、さらに大型トラクターが充分に駆使できて、単に農作業が能率的になつたというばかりでなく、一農家で三名を必要とした農業経営が二名で済み、一名は農外収入を獲得することができ、きょうなきさが見え始めたことは、農業の機械化が充分にその効果を發揮しつつあると判断してもよからう。

一、作業の効率化

例えば施肥種作業ならば一区画一畝であるので、一日間の作業でも一ヶ所で継続して作業すればよく、他のほ場への移動時間は、作業にもよるがあまりない。かりに移動しても隣接した区画か又は二、三枚飛ばす程度の作業である。

二、一区画の作業効率が向上した原則として短冊型には場が整備されているので巡回時間が少なくなり作業効率が向上した。

三、用水管理に必要な作業時間が省力できる

一カ所の取入口より数枚の区画に灌水することもありうるし、人力で簡単な「せき」等を作る必要もなくなる。

四、農業資材運搬が極めて短時間ででき